

審査の結果の要旨

氏名 月田尚美

本論文は台湾東部のセデック語（タロコ方言）の記述である。「第1章 セデック語の概略と文化的背景」はセデック語の系統、地理的分布、歴史、言語の名前、方言差、現状、伝統的な生活と文化、本論文で用いた資料、先行研究、等を示す。セデック語は、国語としての中国語が広まる中で、消滅の危機に瀕している。「第2章 音韻論」は分節音素、音素の最小対、音素の交替・脱落・メタセシス、語の構造、超分節音素、形態音韻論についての分析を示し、表記法を提示する。「第3章 品詞論」は以下の品詞を設定する：名詞、動詞、人称代名詞、指示詞、数詞、前置詞、副詞、接続詞、間投詞、語気詞。特に、名詞と動詞の区別は機能の点では困難であることを指摘する。「第4章 動詞の態と名詞の格の体系」は名詞句の格の体系と動詞の態の体系の概略を示す。特に、動詞の態（いわゆるフォーカス体系）は、この言語の文法を分析するのに重要な現象である。「第5章 形態論」は名詞と代名詞の格と数、名詞に現れる時制、動詞の態と時制・法・相、数詞の様々な形と用法、動詞の派生、名詞の派生を記述する。「第6章 統語論（その1）：単文」は文の種類、名詞句の構造、単文の構造、動詞の態と主語項、非主語項の現れ方、動詞句の拡張、副詞表現、疑問文、命令文・誘いかけ文・申し出文、所在文・存在文・所有文、程度に関する表現、受益および授益に関する表現、派生的な態を扱う。「第7章 統語論（その2）：複文など」は不定詞構文、動詞連続、動詞句・動詞の等位接続、動詞句の用法、節の埋め込み、緩く繋がった節を分析する。「第8章 まとめ」は本論文を概観し、今後の課題を示す。簡単な基礎語彙表が付いている。

本論文の大きな貢献は少なくとも三つある。(i) 本論文ほど包括的かつ詳細な記述はセデック語には無かった。台湾原住民語でも希である。世界各地の少数言語や危機言語の記述でも、数は少ない。言語の記録としての価値が高い。(ii) 台湾原住民語に限らず、世界各地の少数言語の研究では、音韻と形態の記述はあるが、統語の研究が立ち後れている。しかし、本研究は、統語現象を包括的かつ詳細に記述した。(iii) ただ事実を列挙するだけでなく、非常に高度な分析を、多数提示している。例えば、6.3 と 6.4 での、主語を始めとする、単文の構成要素の分類である。この様な分類は台湾やフィリピン等の、いわゆるフォーカス体系を持った言語の研究では従来殆ど無かった。

本論文には、例文の英訳等、改善の余地はある。しかし、台湾原住民語の研究だけでなく、一般言語学にとっても大きな貢献である。以上の理由により、審査委員会は、本論文が博士（文学）の学位を授与するに十分値するものと判断する。